

## 鳥取県の地形

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
よしがみ 吉岡断層	変動地形 > 地震断層崖	Tec-falt-2-1-TOTT	*③	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鳥取南部（鳥取16-1）			
解説	吉岡断層は鳥取市西部、湖山池の南側をほぼ東西方向に走り、吉岡温泉から野坂川まで続く約5kmの断層。1943年の鳥取地震で50cmほど垂直に変位した。分離丘陵やリニアメントは明瞭であるが、崖はそれほど顕著ではなく、最大でも落差50m前後の急斜面しか見られない。 見よ→妙徳寺の河川争奪：Ful-pira-1-2-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
しかの 鹿野断層	変動地形 > 地震断層崖	Tec-falt-2-2-TOTT	*③	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市・気高郡鹿野町		2.5万 鳥取南部・鹿野（鳥取16-1・-3）			
解説	鹿野断層は鳥取市口細見から鹿野町小畑に続く長さ約8kmの断層で、東北東-西南西方向に延びる。垂直変位は10m以上、右横ずれ断層である。1943年の鳥取地震時に活動しており、活断層崖（横ずれを含む）といえる。 見よ→今市の河川争奪：Ful-pira-1-1-TOTT、今市付近の谷中分水界：Ful-divv-1-1-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
いわつぼ 岩坪断層	変動地形 > その他の断層崖	Tec-falt-1-1-TOTT	③	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市・気高郡鹿野町		2.5万 用瀬・岩坪（鳥取16-2・-4）			
解説	岩坪断層は鳥取市上妙見から岩坪を経て河内に至る長さ約11kmの断層で、ほぼ東西方向に走り、確実度はIとされている。段丘面も切っており、その垂直変位は5mを超える。全体として、断層に沿って流れる妙見川などは山地を300～500m切り込む深い谷を形成している。 見よ→岩坪付近の風隙：Ful-wgap-1-1-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おおいわ 大岩の隆起波食棚	変動地形 > 隆起波食棚	Tec-mari-1-1-TOTT	④	微	D
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 浦富（鳥取11-4）			
解説	鳥取県東部、岩美町にあるJR大岩駅の東100mの線路北側にあり、標高0.5m、第三紀層を削って平坦な波食棚が形成されている。隆起量は不明瞭で、離水波食棚とよぶのが適切かもしれない。現在は圃場整理によって埋没し、ほとんど見ることはできない。50mほど南の丘陵の縁には“嶋根の水”という湧水池があり、波食棚とほぼ同水準の高度にあったと考えられる。現在は水量が乏しい。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

ひつやま 孤山の隆起海食洞	変動地形 > 隆起海食洞	Tec-mari-2-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡福部村		2.5万 浦富(鳥取11-4)			
解説	鳥取砂丘の東部、湯山の北にある孤山(一ツ山)は標高61m、砂丘の中にポツンと突き出た基盤岩の山で、砂丘ができる前には海に浮かぶ島であった。北に面する岩壁には、石英安山岩の割目に沿って小さな海食洞が形成されている。天井の高さ1m、幅4～5m、奥行き5m、入り口周辺の岩壁にはタフオニがみられる。洞窟の底は海拔5m位であるが、砂によって埋積されているため、原底面ははっきりしない。日本海との間は砂丘で隔てられている。 山陰海岸国立公園の一部に含まれる。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
きたうらやま 北裏山の隆起海食洞	変動地形 > 隆起海食洞	Tec-mari-2-2-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市丸山町		2.5万 鳥取北部(鳥取15-2)			
解説	鳥取市浜坂地区、旧袋川の右岸にあり、丸山(標高85m)の西側の岩壁に形成された隆起海食洞。花崗岩からなる岩壁の割目に沿う、奥行き8m、入り口の高さ1m、幅1mの細長い洞窟で、洞窟の底面は旧袋川の河床より2mほど高い位置にある。鳥取市の天然記念物に指定されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
はしづ 橋津の海食洞	変動地形 > 隆起海食洞	Tec-mari-2-3-TOTT	④	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡羽合町		2.5万 青谷(松江3-2)			
解説	馬ノ山(標高107m)の北西麓、羽合町橋津の橋津川右岸の岩壁には数個の海食洞がみられる。第三紀の安山岩を削って形成されたもので、洞窟の天井の高さは2～3m、奥行きは深いもので10m近くある。底面の高さは標高約0.5mで、地下水が溜っているものもある。現在の水面とは砂州や三角州で隔てられている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
みせん 弥山	火山地形 > 溶岩円頂丘	Vol-mt-1-1-TOTT	③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山(松江8-4)			
解説	大山火山の中央部、弥山(標高1711m)を中心とした底径3kmほどの溶岩円頂丘。1万数千年前に噴出した石英安山岩から構成される。大山の火山活動の中では最も新しい時期の溶岩である。標高800～900mより高い位置を占める。山腹には円頂丘を取り巻くように崖錐性の堆積物に覆われ、西方からは「伯耆富士」と呼ばれるにふさわしい見事な円錐形をしている。弥山の山頂部はかなり平坦であるが、北壁と南壁は崩壊が激しく、稜線まで侵食が進んでいる。 東の三鈷峰(標高1516m)や野田山(標高1344m)、南東の烏ヶ山(標高1448m)は弥山円頂丘より古い時期の噴出物である。一帯は大山隠岐国立公園に指定されており、山腹にはキャンプ場やスキー場も整備されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

船上山 <small>せんじょうさん</small>	火山地形 > 溶岩台地	Vol-lava-1-1-TOTT	③	中	A
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡赤碓町		2.5万 船上山・伯耆大山 (松江8-3・-4)			
解説	<p>大山の北東部、矢筈ヶ山から北へと延びる尾根から続くもので、標高750～650mのなだらかな高原状の台地。古期大山火山の活動によって噴出した安山岩質の溶岩から構成される。北側と東西は落差100mを超える急崖で取り囲まれており、天然の要害となっている。鎌倉時代末には隠岐を脱出した後醍醐天皇が名和氏らとともに船上山中腹に立てこもって鎌倉幕府軍と戦った。また、東側の急崖には千丈滝がある。</p> <p>一帯は大山隠岐国立公園に指定されており、東麓には船上山自然の家やキャンプ場などがある。 見よ→ 千丈滝： Flu-fall-1-3-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
広留野高原 <small>ひろどめの</small>	火山地形 > 溶岩台地	Vol-lava-1-2-TOTT	③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡若桜町		2.5万 若桜 (鳥取12-2)			
解説	<p>扇ノ山南東、標高700～900mのなだらかな台地。第四紀前期の扇ノ山の火山活動によるもので、安山岩の溶岩流からなり、ススキ原と原生林が広がる。台地の南側と北側を縁どる来見野川と細見川は、200mを超える深い谷を形成している。来見野川には大鹿滝など諸鹿七滝がある。</p> <p>一帯は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されており、ハイキングコースが設けられている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鏡ヶ成 <small>かがみがなる</small>	火山地形 > 火山性高原	Vol-plat-1-1-TOTT	③	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡江府町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	<p>鳥ヶ山 (1448m) の南東麓で、三方を山で囲まれた標高900m前後の盆地状の高原。最終氷期に噴出した笹ヶ平火砕流が東の擬宝珠山と北の象山の間を埋積してできた閉塞性の高原で、小湿原もみられる。</p> <p>大山隠岐国立公園の一部となっており、鏡ヶ成国民休暇村として、キャンプ場、スキー場など各種の観光施設が整備されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
三原台地 <small>みはらの</small>	火山地形 > 火山性高原	Vol-plat-1-1-TOTT	③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡佐治村		2.5万 加瀬木 (姫路13-3)			
解説	<p>佐治村余戸から岡山県境に向かって約5 km、標高800～900mにある台地。三原台高原とも呼ぶ。玄武岩の溶岩からなり、1 km×1 kmほどの平坦な台地上にはススキの原が一面に広がる。南方の八本越 (標高1010m) を越えると岡山県苫田郡加茂町に通じる。</p> <p>氷ノ山後山那岐山国定公園の一部を占める。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

名和火砕流台地	火山地形 > 火砕流台地	Vol-pyro-1-1-TOTT	③	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡名和町・中山町		2.5万 御来屋・船上山・淀江 (松江7-4・8-3・12-1)			
解説	<p>大山の北麓、名和町御来屋（みくりや）から中山町下市にかけて見られる火砕流台地。標高400mの神田牧場付近から海岸部にまで、扇状に南北約6km、東西約6km広がっている。約10万年前に噴出した名和火砕流堆積物によって構成される。名和火砕流はデイサイト（石英安山岩）礫を主体とする石質火砕流で、最大厚は40mを越える。台地は名和川や宮川によって開析されており、台地面はなだらかな丘陵状を呈する。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
笠ヶ平火砕流台地	火山地形 > 火砕流台地	Vol-pyro-1-2-TOTT	③	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡関金町		2.5万 泰久寺・伯耆大山 (松江8-1・-4)			
解説	<p>烏ヶ山（1448m）の東側、野添川（天神川支流）の上流部に広がる、標高550～800mのなだらかな台地。東西約2km、南北の幅約500m。今から2.5万年前以降に噴出した笠ヶ平火砕流によって形成された。台地の南側と北側は、50～150mの急崖で縁どられる。台地面は開拓によって牧草地や畑となっている。大山隠岐国立公園の一部。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
阿弥陀川扇状地	火山地形 > 火山麓扇状地	Vol-vfan-1-1-TOTT	③	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町・名和町		2.5万 淀江 (松江12-1)			
解説	<p>大山の北西麓、阿弥陀川に沿って、名和町高田から海岸部にかけて見られる扇状地。阿弥陀川河口から上流の名和町高田（標高110m）までは4.8km、海岸部では大山町の平田から名和町の富長まで約5km続き、扇状に広がる。河床勾配は1/45。扇状地を構成するのは厚さ5m以上のデイサイト（石英安山岩）を主体とする円礫・亜円礫層である。大山山麓では最も新しい地形面である。見よ→ 弥山 : Vol-mt-1-1-SHIM</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
金花山の奇岩群	地質を反映した地形 > 奇岩怪石・巨石群	Str-ston-1-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡西伯町		2.5万 江尾 (高梁9-1)			
解説	<p>金花山は、西伯町東部、八金にある標高358mの孤立峰で、古くは権現山とも呼ばれた。第三紀の凝灰角礫岩からなり、洞窟や奇岩・怪石に富む。頂上には熊野神社や八国寺がある。金華山とも記し、全山が西伯町の天然記念物に指定されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鶏岩	地質を反映した地形 > 奇岩怪石・巨石群	Str-ston-1-2-TOTT	③	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡福部村		2.5万 浦富 (鳥取11-4)			

解説	福部村蔵見, 塩見川の支流部に沿う谷底にある。水田から約4m突き出た三角形の一枚岩で、凝灰角礫岩からなる。植生は乏しく、その形が鶏の鶏冠に似ていることから命名された。河川が削り残した丘陵状の部分が河床堆積物で覆われたものと考えられる。
----	---

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
御熊神社の柱状節理	地質を反映した地形>柱状節理	Str-join-1-1-TOTT	③	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鹿野(鳥取16-3)			
解説	鳥取市西部の福井にある御熊神社の社殿の背後にみられる玄武岩の柱状節理。径30~50cmの柱状の玄武岩が地中に突き刺さるように林立している。岩盤から切り離されているものも多く、社殿の石段などにもこの石が利用されている。鳥取市の天然記念物に指定されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
屏風岩の柱状節理	地質を反映した地形>柱状節理	Str-join-1-2-TOTT	③	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡若桜町		2.5万 若桜(鳥取12-2)			
解説	若桜町諸鹿, 来見野川の右岸に約1km続く急崖にみられる安山岩の節理。屏風岩は扇ノ山から噴出した溶岩の造る台地を縁どり、高さ100mを越える崖となっているが、かなり開析されてパッドランド状になっている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
滝ヶ磯の柱状節理	地質を反映した地形>柱状節理	Str-join-1-3-TOTT	③	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡福部村		2.5万 浦富(鳥取11-4)			
解説	福部村の北部、駒馳山の北西海岸に滝ヶ磯という礫浜がある。柱状節理は浜の背後にある100m近い崖の中腹から基部にかけて存在する。第三紀の角礫凝灰岩層に貫入した安山岩にみられるもので、径30~40cmの四角形の節理が発達している。節理は崖の斜面と平行して走るため、崖の面は階段梯子のようにみえる。大雨の直後には、この階段状の崖を水が滝のように落下する。滝ヶ磯の名前はこの節理面に出現する滝にちなんでつけられた。 一帯は山陰海岸国立公園の一部に含まれる。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
俣山付近の地すべり	地質を反映した地形>地すべり地	Str-slip-1-1-TOTT	③	中S	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡八東町		2.5万 若桜(鳥取12-2)			
解説	八東町横地の細見川右岸に位置し、標高450~350mの山腹の緩斜面。古生代の結晶片岩と蛇紋岩の接触部にあり、いわゆる蛇紋岩の地すべりに相当する。約31haが地すべり防止地域に指定されている。地すべり斜面は棚田となっている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

横尾付近の地すべり	地質を反映した地形＞ 地すべり地	Str-slip-1-2-TOTT	④	中S	B
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 若桜(鳥取12-2)			
解説	蒲生峠の南西部、岩美町洗井の蒲生川右岸に位置する標高300～200mの山麓の緩斜面。第三紀の砂岩・泥岩地域にあたり、いわゆる第三紀地すべりである。地すべり斜面は棚田となっている。				

名称	地形種＞項目	コード	重要度	規模	保存度
小鹿溪	河川地形＞ 峡谷	Flu-cany-1-1-TOTT	④	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡三朝町		2.5万 三朝(松江4-2)			
解説	天神川の支流、小鹿川の上流部にある溪谷。神倉から中津ダムまで約4km続く。節理の発達した花崗閃緑岩の中に硬い輝緑岩や斑れい岩の岩脈が貫入しており、それを削って多くの淵や滝が形成されている。下流から冠岩、丹戸淵、五郎淵、掛布滝、雨垂滝、弥六ふち、水晶滝、雌淵、玉藻滝、帯岩、化粧岩、滝女崖、笑顔岩、雄淵、寝覚巖、神繩瀑、長者屋敷、乙女淵、品字滝、夫婦瀑、繡襟淵が奇勝21景と呼ばれる。雄淵や雌淵付近が小鹿溪探勝の中心である。広い範囲に自然林が残されており、紅葉が美しい。 国の名勝に指定されている。一帯は三朝東郷湖県立自然公園に含まれる。				

名称	地形種＞項目	コード	重要度	規模	保存度
石霞溪	河川地形＞ 峡谷	Flu-cany-1-2-TOTT	④	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡日南町		2.5万 上石見(高梁10-3)			
解説	日野川とその支流、石見川とが交わる地域一帯に広がり、約2kmに渡って、壘岩や獅子岩、阿虎ヶ淵などの奇岩・深淵が続く。石見川の部分を南石霞溪、日野川の部分を中石霞溪と呼ぶ。支流の印賀川の部分が北石霞溪と呼ばれていたが、現在は菅沢ダムによって水没してしまった。溪谷全体が花崗岩地域にあたり、清流と白い岩塊との配色が見事である。奥日野県立自然公園の一部を占める。				

名称	地形種＞項目	コード	重要度	規模	保存度
三滝溪	河川地形＞ 峡谷	Flu-cany-1-3-TOTT	④	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡河原町		2.5万 岩坪(鳥取16-4)			
解説	千代川の支流、曳田川上流部にある溪谷。河原町北村から三滝まで約6km続く。流紋岩や安山岩類を切って深い谷が形成され、支流のものを含めて60余りの滝が見られる。落差60mの千丈滝(千畳滝)や落差40mの三滝(不動滝)がその代表である。滝のほかに百尋淵や爛鍋淵などの淵、夫婦岩や宝石などの奇岩や早瀬がある。 県の名勝に指定されている。				

名称	地形種＞項目	コード	重要度	規模	保存度
雨滝	河川地形＞ 滝及び滝壺	Flu-fall-1-1-TOTT	*④	微	A

所在地		図幅名	
鳥取県 岩美郡国府町		2.5万 扇ノ山 (鳥取12-1)	
解説	<p>国府町の東部、兵庫県境に近い河合谷高原から流れ落ちる落差 40mの滝。千代川の支流、袋川の上流にあたり、標高は約 500m、造瀑層は板状節理や柱状節理の発達した火山岩類で、水量も豊富で水しぶきが見事である。日本の滝百選にも選ばれ、遊歩道や展望台が整備されている。氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されている。遊歩道沿いには、岩盤から地下水が湧出し、滝となって落下する布引の滝 (落差 20m) もみられる。</p>		

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大山滝	河川地形 > 滝及び滝壺	Flu-fall-1-2-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡東伯町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	<p>大山の槍ヶ峯を源とする加勢蛇川 (かせいちがわ) は東へ流れ、地獄谷と名付けられた急峻なV字谷を通る。地獄谷の東の境をなすのが大山滝で、落差は 37m、2段になって流れ落ちる。水量も豊富で深い滝壺が形成されている。2001年に発生した崩壊によって土砂が滝壺の下流を堰き止められたため、水位が上昇し、滝の落差が縮小したことがある。</p> <p>大山隠岐国立公園の一部で、日本の滝百選にも選ばれている。入り口にあたる一向平 (いっこうがなる) にはキャンプ場などが整備されており、滝までの 1km の遊歩道は大山山頂へと続いている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
千丈滝	河川地形 > 滝及び滝壺	Flu-fall-1-3-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡赤碕町		2.5万 船上山 (松江8-3)			
解説	<p>船上山の東側にあり、なだらかな溶岩台地と急崖の境界部、標高 600m付近にある雌雄 2つの滝。落差は雄滝 100m、雌滝 90m。勝田川の上流にあたるが、水量はあまり豊富ではなく、渇水期には途切れることもある。造瀑層は安山岩である。近寄ることは困難で、船上山周回道路から遥か頭上に眺めることができる。大山隠岐国立公園の一部。</p> <p>見よ→ 船上山 : Vol-lava-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
赤波川の甌穴群	河川地形 > 甌穴群 (ポットホール)	Flu-poth-1-1-TOTT	*③	中線	A
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡用瀬町		2.5万 智頭 (姫路13-1)			
解説	<p>千代川の支流赤波川中流部には小滝や淵が点在する溪谷があり、河床には大小様々な甌穴が約 1.2kmに渡って続いている。谷幅や水量は大きくないが、甕型、横穴型、滝壺型、横穴型、溝穴型、連結型など色々なタイプの甌穴がみられ、その数は100個を超える。甌穴は花崗岩の岩床を削って作られており、深いものは甕型で2.1m、滝壺型で3.5mに達する。甌穴内には変成岩の礫が堆積している。赤波川溪谷甌穴群として、案内板などが整備されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
小原川の穿入蛇行	河川地形 > 穿入蛇行	Flu-mean-1-1-TOTT	④	中線	B

所在地		図幅名	
鳥取県 日野郡日南町		2.5万 印賀・上石見 (高梁9-4・10-1)	
解説	日南町の福万来から霞にかけての約10kmの間に、日野川の支流小原川は、花崗岩類からなる山地を100m前後切り込み、小さな屈曲を繰り返しながら流れている。氾濫原の幅も広くなく、貫入曲流(はめ込み蛇行)の様相を呈している。一帯には標高500~600mの定高性が顕著な日野高原が広がる。		

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
いまいち 今市付近の河川争奪	河川地形 > 河川争奪地形	Ful-pira-1-1-TOTT	②	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡鹿野町		2.5万 鹿野 (鳥取16-3)			
解説	<p>河内川の上流部は、かつて鹿野町の今市から北の浜村川へ流れていた。それを河内川が奪ってしまったのである。河内川が争奪河川、浜村川が被争奪河川になる。河内川側の谷底平野は今市付近のかつての河床面より4~5m低い位置にあり、今市付近は河内川に対しては段丘となっている。しかし、浜村川もかつては小仏谷から北へ流れ永江川へ注いでいた。すなわち、次のように少なくとも2回の争奪があり、3つの川筋があったと考えられる。</p> <p>①河内川上流~永江川 →争奪→ ②河内川上流~浜村川 →争奪→ ③河内川上流~河内川</p> <p>争奪の原因は鹿野断層によるものである。ただし、鹿野断層は右横ずれであり、流路の変更方向とは一致しない。断層が弱線となり、侵食が進んだためと考えられる。争奪の時代については、地形の開析状態などからみて、比較的新しい時期であろう。</p> <p>見よ→今市付近の谷中分水界：Ful-divv-1-1-TOTT, 鹿野断層：Tec-falt-2-2-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
みょうとくじ 妙徳寺の河川争奪	河川地形 > 河川争奪地形	Ful-pira-1-2-TOTT	②	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡鹿野町		2.5万 鹿野 (鳥取16-3)			
解説	<p>湖山川(長柄川)の上流部は、かつて鳥取市の妙徳寺から北の吉岡温泉町へ流れていた。それが向山の北側の地点で湖山川へと流れるようになった。</p> <p>文禄2年(1593)の高麗水という大洪水を機に長柄へ流下するようになったという文書がある。しかし、向山の北の水路はもとも存在し、時に長柄へ、時には吉岡温泉側へと流れていたものが、この洪水で、現在の水路に定常的に流れるようになったと考えられる。いずれにしても、争奪の時代はかなり新しい。湖山川は向山の北で平野面を数m切り込む峡谷となって長柄へ流れ込んでいる。幕末には、湖山川から吉岡側へ農業用水路が敷設されている。</p> <p>吉岡断層は争奪地点の約1km北にあり、争奪の直接的な原因とはならないが、垂直的な変位による侵食力の差が影響していると考えられる。</p> <p>見よ→吉岡断層：Tec-falt-2-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
いわひら 岩坪付近の風隙	河川地形 > 風隙	Ful-wgap-1-1-TOTT	②	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 岩坪 (鳥取16-4)			



解説	鳥取市岩坪にある。千代川の支流、妙見川の源流部はかつて岩坪から北流し、坂根から松上へと流れて野坂川と合流していた。それが、岩坪断層に沿って、妙見川が谷を深く切り込んだため、坂根側の流域を奪ってしまった。風隙の標高は230m、妙見川の河床より40m高く、段丘化している。坂根付近の川は水量の少ない無能河川となっている。 見よ→岩坪断層：Tec-falt-1-1-TOTT
----	---

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
福本南方の風隙	河川地形 > 風隙	Ful-wgap-1-2-TOTT	②	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡三朝町		2.5万 下鍛冶屋 (高粱1-3)			
解説	三朝町福本と岡山県真庭郡中和村別所との境界となっており、通称“四十曲の虬”という。標高は505m、国道482号線が通る。福本川の支谷と下和川の支谷との分水界となっている。中和村側はなだらかな勾配となっているが、福本側は200mほど下流から、深い谷が刻まれている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
山宮付近の谷中分水界	河川地形 > 谷中分水界	Ful-divv-1-1-TOTT	②	線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡気高町		2.5万 鹿野 (鳥取16-3)			
解説	気高町山宮の田仲付近に見られる浜村川と永江川の分水界。かつての永江川の上流部を浜村川が争奪した結果として形成された。分水界の標高は約50m。浜村川の河床はあまり下刻が進んでおらず、永江川の谷底平野との間に明瞭な段差は存在しない。 永江川の水量は非常に少ないため、現在は浜村川から人工的な用水路が掘られている。鹿野断層が流路変更に大きく影響したものと考えられる。 見よ→鹿野断層：Tec-falt-2-2-TOTT 今市付近の河川争奪：Ful-pira-1-1-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
堀越付近の谷中分水界	河川地形 > 谷中分水界	Ful-divv-1-2-TOTT	②	線	C
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市・八頭郡郡家町		2.5万 稲葉山 (鳥取12-3)			
解説	鳥取市と郡家町の境界、JR東郡家駅の北、標高65m地点にみられる。北流する砂田川の源流部と私都川へ注ぐ小谷の分水界となっている。砂田川側の勾配がやや緩やかである。谷幅は狭いが、古くより交通路が開け、南北に続く谷に沿ってJR因美線と国道29号が平行して走っている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
八頭川下流部の谷底平野	河川地形 > 谷底平野	Flu-plan-1-1-TOTT	④*	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡八東町・郡家町・船岡町		2.5万 因幡郡家・用瀬 (鳥取12-4・16-2)			

解説	八東川は兵庫県境の戸倉峠付近を源にして北西に流れる流長30 km、流域面積420 km <sup>2</sup> で千代川最大の支流である。若桜町、八東町、郡家町、船岡町を経て河原町で千代川と合流する。細見川が合流する八東町日田付近から私都川が合流する郡家町米岡までの約17 kmの間には幅広い谷底平野が存在する。平野の幅は0.5～1 km、自然堤防はあまり見られず、ほとんどが氾濫原で水田として利用されている。集落は山際に立地している。
----	---

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おがも 小鴨付近の埋積谷	河川地形 > 埋積谷	Flu-bury-1-1-TOTT	*③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡関金町		2.5万 関金宿・泰久寺 (松江4-4・8-2)			
解説	小鴨川は関金町の象山付近を源にして北東に流れる流長24 km、流域面積230 km <sup>2</sup> で天神川最大の支流である。小泉川、福原川、清水川、矢送川、広瀬川、国府川（こうがわ）などを合わせて、倉吉市上井で天神川に合流する。清水川が合流する関金町今西付近から国府川が合流する倉吉市庁付近までの約16 kmの間には幅広い谷底平野が存在する。平野の幅は0.5～1.5 km、自然堤防や旧河道が点在する氾濫原であるが、河床勾配は1/200とやや大きく、扇状地的な様相を呈する。谷底平野は大山火山から噴出した石英安山岩の巨礫・大礫を含む厚い礫層で覆われている。山際には火砕流台地や河岸段丘が発達している。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ふるいち 古市付近の河岸段丘	河川地形 > 河岸段丘及び段丘崖	Flu-terr-1-1-TOTT	④	小	C
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡溝口町		2.5万 江尾 (高梁9-1)			
解説	日野川と支流の野上川が合流する溝口町の古市付近には三段の河岸段丘が発達している。高位のものは比高60m前後で樹木に覆われる。中位のものは比高15～20m、低位のものは比高10m前後で、集落や水田・畑が立地している。段丘の形成時期については不明である。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おしかがわ 小鹿川の河岸段丘	河川地形 > 河岸段丘及び段丘崖	Flu-terr-1-2-TOTT	④	小	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡三朝町		2.5万 三朝 (松江1-2)			
解説	天神川の支流、三徳川へ注ぐ小鹿川には河岸段丘が発達している。小鹿川の段丘は大別すると、河床からの比高7～10mの低位面と、15～20mの中位面、60m以上の高位面の3段に分けられる。低位の段丘は小鹿溪の入り口の神倉付近から三徳川との合流点付近まで連続的にみられる。中位面は神倉付近から小鹿川の中流部にかけて、断片的に分布している。高位面は小鹿川の中流部の東小鹿と西小鹿付近にしかみられない。形成時代については不明。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ひのがわ 日野川の扇状地	河川地形 > 扇状地	Flu-fan-1-1-TOTT	③*	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡岸本町・米子市		2.5万 米子 (松江12-3)			

解説	岸本町岸本の伯耆橋（国道181号）から北に広がる日野川の扇状地。標高40mから標高5m付近まで分布し、北限は国道9号まで。扇状地には自然堤防や旧河道が点在し、扇状地面の勾配は1/200である。大山から流れ出す複数の支流が大量の砂礫を日野川に供給しており、現在でも日野川河口部まで礫が存在している。こうした砂礫の存在が扇状地の形成に役立っているものといえる。
----	--

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
はなはらがわ 花原川の沖積錐	河川地形 > 沖積錐	Flu-cone-1-1-TOTT	⑤	中S	C
所在地		図幅名			
鳥取県 八頭郡家町		2.5万 稲葉山（鳥取12-3）			
解説	郡家町の花原、山田、山路地区にある花原川の沖積錐。花原川は猫山の北に源を発し、古生層や変成岩の山地を切って北流し、標高120～70mにかけて沖積錐を形成している。沖積錐の勾配は1/50。花原川は千代川の支流私都川へと注ぐ。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
しもやすい 下安井付近の沖積錐	河川地形 > 沖積錐	Flu-cone-1-2-TOTT	⑤	中S	C
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡江府町		2.5万 江尾（高粱9-1）			
解説	日野川中流部左岸、江府町下安井にある小沖積錐。変成岩からなる古峠山（標高767m）から南東へ流れる小谷が日野川と合流する出口に形成されている。標高は170～210m、沖積錐の勾配は1/10である。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
さだがわ 佐陀川上流の水無川	河川地形 > 水無川	Flu-dry-1-1-TOTT	②	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡岸本町		2.5万 伯耆大山・伯耆溝口（松江8-4・12-2）			
解説	佐陀川は大山の元谷から北西へ流れ、大山寺付近から西方へ流れを変え、米子平野へと下っていく流長20km、流域面積47km <sup>2</sup> の河川である。大山寺付近（標高750m）から中楨原（標高350m）にかけての約4.5kmの間は、巨礫の点在する河床には、流水は見られず、すべて伏流水となっている。大山火山から崩落してきた大量の土砂が堆積した結果、このような涸れ川になったもので、数多くの砂防ダムが建設されていることも、伏流水となった原因の1つである。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ぬす 布施の清水	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡気高町		2.5万 鹿野（鳥取16-3）			
解説	気高町の南西にある布施平神社境内の岩下の湧水。地元では「八幡さんの清水」として知られる。1日の湧水量は100m <sup>3</sup> 。明治42年県下で初めての水道が敷設された際に、水源として利用された。鳥取県の名水百選にも選ばれている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

あめ 天の真名井	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-2-TOTT	*④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡淀江町		2.5万 淀江(松江12-1)			
解説	淀江町の高井谷、標高25mにある幅15m、奥行き5mの湧水池。湧水量は2500 t / 日。孝霊山の火山体の山麓部から湧き出る。日本の名水百選に選ばれており、遊歩道なども整備されている。生活用水や農業用水、ニジマス養殖などに利用されている。地元の集落では年に一度底ざらえをして、水源保全に努めている。水源から少し離れた所に来訪者のための採水場が、別途設けられている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ほんぐう 本宮の泉	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-3-TOTT	④*	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡淀江町		2.5万 淀江(松江12-1)			
解説	宇田川の上流、淀江町本宮地区にある。標高は120m、第三紀の安山岩溶岩から崩落した崖錐の斜面から水路沿いに湧き出している。一帯に亜熱帯性のクリハランが繁茂する。1日3万tと豊富な湧水量を誇り、地元の簡易水道を始め、農業用水やニジマス養殖にも利用されている。因伯の名水16選の一つで、休憩所やトイレも整備されている。水源からやや離れた所にも来訪者のための採水場が、別途設けられている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あきさと 秋里付近の自然堤防	河川地形 > 自然堤防	Flu-leve-1-1-TOTT	⑤	中S	C
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鳥取北部(鳥取15-2)			
解説	国道9号の八千代橋から千代川の右岸を北方に1kmほど続く微高地で、最大幅は500m、千代川からの比高は3mあり、三角州面より0.5~1m高い。秋里の東側、松並町には北東の丸山に延びる旧河道があり、自然堤防より1m以上低い土地となっている。千代川は大正時代にはこの位置を流れていた。自然堤防の一部はかなり古い時代に形成されていたようで、弥生~古墳時代の遺跡が見つかっている。以前は畑として利用されていたが、近年は多くの住宅が建てられている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ふくもりちょう 福守町付近の自然堤防	河川地形 > 自然堤防	Flu-leve-1-2-TOTT	⑤	中S	C
所在地		図幅名			
鳥取県 倉吉市福守町		2.5万 倉吉(松江4-3)			
解説	天神川支流小鴨川の左岸には、福山の大鴨橋から小鴨を経て福守町まで、断続的に続く小鴨川の旧河道をたどることができる。その中で、西倉吉町から福守町付近では自然堤防の発達が良い。幅100m以上で、周辺の水田面より数10cm高くなっている。集落や畑地が立地している。 見よ→小鴨付近の旧河道：Flu-rbed-2-3-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
しみずがわ 清水川沿いの旧河道	河川地形 > 旧河道	Flu-old-1-1-TOTT	⑤	中S	C
所在地		図幅名			

鳥取県 鳥取市秋里～江津		2.5万 鳥取北部（鳥取15-2）			
解説	清水川は鳥取平野の南部，八坂から叶を通り大路川へ注ぐ，平野内を流れる小河川。平野面より低く，排水路を兼ねている。清水川はかつての千代川の流路跡を流れている。かつての千代川は八坂の国安から馬場へ流れ，西へ屈曲して，数津から北へ向かい，叶土居を経て吉成付近に流路があった。幅は200～300mで周囲より1m近く低くなっている。旧河道沿に沿って，倉田八幡宮のある馬場や数津，宮長には自然堤防状の微高地がみられる。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
うみかわ 海川	河川地形 > 旧河道	Flu-old-1-2-TOTT	⑤	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡日吉津村海川新田・米子市二本松		2.5万 淀江（松江12-1）			
解説	日吉津村の東側，米子市との境界付近にみられる日野川の河道跡。米子市の蚊屋付近から海川排水路に沿って北へ続く。周囲より0.5～1m低い位置にあり，幅100～200mにわたって水田となっている。河道跡の東西は砂地で畑として利用されているのと好対照である。国道9号より南側は住宅や商工業地としての造成が著しく，流路跡をたどることは困難である。この河道は16世紀半ばから18世紀初頭までの日野川の流路であった。16世紀半ばまでは，東の佐陀川の位置を日野川が流れており，18世紀初頭以降に日野川はほぼ現在の位置を流れるようになった。ただし，氾濫時には海川や佐陀川にも溢流していたという。なお，佐陀新田や海川新田は江戸時代に開発されたものである。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おがも 小鴨付近の旧河道	河川地形 > 旧河道	Flu-old-1-3-TOTT	⑤	中線	C
所在地		図幅名			
鳥取県 倉吉市		2.5万 倉吉・関金宿（松江4-3・-4）			
解説	天神川支流，小鴨川の左岸に見られる小鴨川の旧河道。福山の大鴨橋から蔵内，小鴨，中河原，池田，西倉吉，福守まで，断続的に約6km続いている。中でも，小鴨～中河原にかけては，自然堤防に挟まれた河道の跡が比較的明瞭に残っている。幅約100m，周囲より数10cm低くなっている。現在でも旧河道に沿って水路が延びている。かつての国鉄倉吉線の軌道は旧河道の土手にそって敷設されていた。 見よ→福守町付近の自然堤防：Flu-leve-1-2-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
とっとり 鳥取平野	河川地形 > 三角州	Flu-delt-1-1-TOTT	⑤*	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鳥取北部・鳥取南部（鳥取15-2・16-1）			

解説	鳥取平野は千代川の河口に形成された山陰有数の沖積平野である。北の日本海とは鳥取砂丘で隔てられる。平野の内で、三角州は、西は湖山池湖岸まで、東は久松山の麓まで、南は古海一古市一鳥取城下の標高6～7m付近まで、南北約6km、東西約4kmに達する。三角州の上流側には千代川や袋川などの氾濫原や谷底平野が広がっている。				
	千代川の大きさに比べると鳥取平野の規模は大きい。その理由として、千代川の流域は流長に比べて面積が大きく、起伏も大きいこと、千代川を始め、野坂川や袋川などの支流が平野に向かって求心的に注いでいることなどがあげられる。				
	平野から突き出す標高50m以下の独立峰、天神山や卯山、足山などは、湖山池に浮かぶ青島のように、かつては鳥取湾に浮かぶ島であったが、現在は三角州平野に陸封されたものである。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
くらよし 倉吉平野	河川地形 > 三角州	Flu-delt-1-2-TOTT	⑤	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 倉吉市		5万 青谷・倉吉 (松江3・4)			
解説	倉吉平野は天神川の河口に形成された山陰有数の沖積平野である。北の日本海とは北条砂丘地で隔てられる。平野の内で、三角州は、東は東郷池湖岸まで、西は大栄町の由良川付近まで、南はJR山陰線の標高10m付近まで広がる。三角州の上流側には天神川や小鴨川などの氾濫原や谷底平野が続いている。旧河道や自然堤防は三角州面ではあまり発達していない。				
	<b>なお</b> 、北条町から由良川にかけて、砂丘地の背後に延びる平野は、近世まで浅い潟湖が残っており、近世以降の干拓によって水田化されたものである。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
うらどめ 浦富海岸	海岸地形 > 岩石海岸	Coa-coas-1-1-TOTT	*③	大	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後・浦富 (鳥取11-3・-4)			
解説	鳥取県の東端、岩美町の陸上岬から駈馳山までの約15kmの海岸は浦富海岸と呼ばれ、美しい砂浜や岩壁が続き、山陰海岸国立公園に指定されている。その中で、田後港から網代港までの約3kmの海岸には、網代港から西に向かって、海賊穴、千貫松島、おしろいの断崖、岩燕洞門、観音浦、三ツ大島 (西大島・中大島・東大島)、児落としの断崖、赤壁洞窟、水尻洞門、酒宴洞門、鴨ヶ磯 (砂浜海岸)、菜種島、城原海岸 (磯浜海岸) と続き、入り組んだリアス海岸に小さな砂浜が点在する岩石海岸となっており、「山陰の松島」と称せられる。波浪によって侵食された花崗岩の海食崖にはノッチや海食洞・波食棚が形成されている。				
	浦富海岸は国の名勝・天然記念物に指定されており、網代港からは遊覧船が周航しており、海岸遊歩道も整備されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
いわど 岩戸海岸の波食棚	海岸地形 > 波食棚 (波食台)	Coa-benc-1-1-TOTT	③	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡福部村		2.5万 浦富 (鳥取11-4)			

解説	<p>福部村の東部、駒馳山の北西海岸には、第三紀の角礫凝灰岩が波浪で削られ、見事な波食棚が形成されている。海岸の岩盤にはタフォニが発達している。波食棚は海岸から沖へ数10m延びており、非常に平坦である。水面から30～50cmの高さであるが、高潮時には海に覆われる。岩戸漁港の堤防背後には、高さ2mの位置に隆起海食洞もみられる。</p> <p>一帯は山陰海岸国立公園に指定されており、岩戸から岩美町の太谷にかけて駒馳山沿いに長さ約2.5kmの遊歩道が設けられている。</p>
----	--

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
浦富海岸の海食崖	海岸地形 > 海食崖	Coa-clif-1-1-TOTT	③	中線	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後・浦富 (鳥取11-3・-4)			
解説	<p>田後港から網代港までの約3kmの浦富海岸は入り組んだ岩石海岸で、数多くの小島や岬・鼻の大部分に海食崖が発達している。崖の高さは平均して50m前後で垂直的な崖はそれほど顕著ではない。高波の影響は海拔20mまでで、ベージュや淡い褐色をした花崗岩の岩肌がむき出しになっている。それより高い所は、クロマツや草本類に覆われている。顕著な崖としては、おしろいの断崖(落差70m)や児落としの断崖、観音浦の断崖がある。</p> <p>一帯は山陰海岸国立公園に指定されており、崖の上を巡る遊歩道も設けられている。</p> <p>見よ→浦富海岸：Coa-coas-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
電神洞	海岸地形 > 海食洞	Coa-cave-1-1-TOTT	*③	線U	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後 (鳥取11-3)			
解説	<p>東浦富海岸の羽尾岬突端の50mを越える絶壁が削られてできた海食洞。東側の海竜神と西側の丘竜神の2つを併せて呼ぶ。海竜神は入り口の高さ10m、幅8m、奥行き150m、途中まで小舟が入れる。丘竜神は崩落物によって海とは切り離されている。入り口は崩落物で覆われて1mほどの隙間しかないが、内部は奥行き80mまで達する。いずれも第三紀の角礫凝灰岩の節理に沿って形成されたもので、洞窟内の岩壁には数cmの溶岩鍾乳石がみられる。かつては、長さ20cm位の大きな鍾乳石があったという。洞窟のある岩壁には安山岩の柱状節理もみられる。</p> <p>山陰海岸国立公園の一部に指定されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
千貫松島の海食洞	海岸地形 > 海食洞	Coa-cave-1-2-TOTT	③*	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後 (鳥取11-3)			
解説	<p>千貫松島は西浦富海岸の網代港の近くにある小島。花崗岩の地層が波浪の作用によって、島を突き抜けて高さ5m、奥行き20mほどの洞窟が形成されている。島には見事な松が生えており、江戸時代に鳥取藩主池田公がその松を移植した者に銭千貫を与えようと云ったことから島の名がついた。西隣には長さ150mの海賊穴も見られる。一帯は澄んだ海と荒々しい岩石海岸が続き、その景観美から山陰海岸国立公園に指定されている。国指定の名勝・天然記念物。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

しろはら 城原海岸のノッチ	海岸地形 > ノッチ (波食窪)	Coa-notc-1-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後・浦富 (鳥取11-3・-4)			
解説	城原海岸は西浦富にある小さな礫浜で、北側に菜種島や離れ岩などがあって、北西の季節風による波の侵食を弱めている。少し奥まった地点や風下の岩陰には、高さ30～50cmの底状のノッチが点々とみられる。大きなものは横幅が10m近くある。現在の潮の干満に対応している。西隣の鴨ヶ磯にも、よく似たノッチが分布する。この一帯は山陰海岸国立公園に指定され、城原海岸から鴨ヶ磯にかけては海中公園になっている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
くろしま 黒島の甌穴	海岸地形 > ポットホール (甌穴)	Coa-poth-1-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後 (鳥取13-3)			
解説	黒島は田後港の北へ約500m離れた海上にある周囲300m、高さ20mの島。礫岩から構成され、植生がないため、黒っぽい鐘状を呈している。島の北端にある現成の波食棚面に見事な甌穴がある。穴の大きさは東西1.4m、南北1.1m、深さ1.6mで穴の底は0.5mの円礫が充填している。この一帯は山陰海岸国立公園に指定されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ななれしま 菜種島周辺の岩礁	海岸地形 > 岩礁	Coa-reef-1-1-TOTT	④	微	A
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後 (鳥取13-3)			
解説	田後港から網代港までの約3kmの浦富海岸は、「山陰の松島」と称せられるように、入り組んだ岩石海岸に数多くの小島が見られる。その数は大小あわせて160余りに達する。とりわけ城原海岸一鴨ヶ磯間には60を越す島が存在する。その中心に位置するのが最大の島、菜種島で周囲400m、高さ48mである。ほかに菜種5島と呼ばれる島が比較的大きい。そのほかの島は非常に小さく、岩礁も数多く含まれている。一帯は山陰海岸国立公園に指定され、海中公園になっている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
はくと 白兔海岸	海岸地形 > 砂浜	Coa-beac-1-1-TOTT	④	中線	A
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鳥取北部 (鳥取15-2)			
解説	鳥取市の西部、千代川河口の西方には背後に湖山砂丘を備えた砂浜海岸が延びる。その海岸の最西部、淤岐島の南から東に向かって約1kmの海岸を白兔海岸と呼ぶ。砂浜の幅は20m以上あり、一帯は海水浴場となっている。背後には浜堤も存在する。砂浜の幅は20m以上あり、一帯は海水浴場となっている。浜堤の南には南限といわれるハマナスが自生している。また、この浜は因幡の白ウサギ伝説で知られ、近くに白兔神社がある。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----



ゆみがはま 弓ヶ浜	海岸地形 > 砂浜	Coa-beac-1-2-TOTT	④	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 米子市・境港市		2.5万 美保関・米子・境港 (松江11-4・12-3・15-2)			
解説	<p>日野川河口から北西に延びる夜見半島の東側の海岸で境港市の北東まで約20km続く日本有数の長大な砂浜。夜見ヶ浜とも呼ばれる。砂浜は東の美保湾に向かってかなり急勾配で、海底は急に深くなっている。砂浜の背後には松林で覆われた浜堤（外浜）が見られる。海岸侵食が激しく、多くの離岸堤が設置されており、離岸堤に向かって小カスプが形成されつつある。境港市の竹内沖で大規模な埋立てが行なわれ、竹内工業団地が造成されたため、砂浜は数km短くなってしまった。海浜キャンプ場や展望台も設置されている。</p> <p>見よ→夜見半島の外浜：Coa-beac-2-1-TOTT 夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
いでがはま 井出ヶ浜	海岸地形 > 砂浜	Coa-beac-1-3-TOTT	④*	線	A
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡青谷町		2.5万 青谷 (松江3-2)			
解説	<p>青谷町の西部、井出にある砂浜海岸。鳴き砂の浜として知られ、細粒の泥分や汚れが洗い流されたきれいな砂を足で踏むとキュッキュツという音がする。明神崎と丸山崎に挟まれた300mほど続く海岸で、幅は30m前後、一帯は海水浴場となっている。また、背後には砂丘が形成されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
よみ 夜見半島の外浜	海岸地形 > 浜堤	Coa-beac-2-1-TOTT	④	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 米子市・境港市		2.5万 美保関・米子・境港 (松江11-4・12-3・15-2)			
解説	<p>日野川の河口から北西へ続く標高5m前後の浜堤。長さ約20km、幅0.5～1kmの外浜砂州の上に形成されたものである。外浜砂州の海側（弓ヶ浜側）に1m前後の高まりをなして<b>続</b>いている。しかし、人為的に<b>均</b>されてしまったため、砂州と浜堤との境界は不明瞭なところが多い。砂丘状の地形は見られない。外浜砂州の形成は比較的新しく、江戸時代以降、急速に成長したもので、日野川流域で盛んになった「鈿」と呼ばれる砂鉄精錬業の影響が大きい。砂州構成層の中からは、カナクソ（鉄滓）がしばしば見つかっている。砂州の上はクロマツの防風林で覆われる。</p> <p>見よ→弓ヶ浜：Coa-beac-1-2-TOTT 夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ほうじょう 北条砂丘の浜堤	海岸地形 > 浜堤	Coa-beac-2-2-TOTT	④	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡北条町・大栄町		2.5万 倉吉・赤碕・伯耆浦安 (松江4-3・7-2・8-1)			
解説	<p>天神川河口から由良川河口に向かって東西方向に連なる約9kmの浜堤。日本海に面する砂浜の背後にはほぼ一直線に続いている。標高は5m前後で、地表はクロマツの防風林で覆われる。一部は砂丘となっており、標高10m前後の所もみられる。背後には北条砂丘が広がる。</p> <p>見よ→北条砂丘 Coa-dune-1-2-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

夜見半島	海岸地形 > 砂州	Coa-bar-1-1-TOTT	*④	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 米子市・境港市		5万 美保関・米子・境港・松江(松江11・12・15・16)			
解説	<p>日野川河口から美保湾に向かって北西方向、美保湾に延びる長さ約20km、幅3～4kmの半島で、陸繋された粟島(標高38m)を除くと、基盤岩は見られず、すべて砂や泥など新しい堆積物から構成されている。粟島を除くと、標高15mを越える所はない。半島全体を日野川から延びる砂州とみなすことができ、日本最大級の砂州といえる。こうした巨大な砂州の形成要因として、日本海の侵食に対する島根半島の防波堤の役割や中海の水深が比較的浅かったという海側の影響の他に、崩壊によって大量の土砂を供給している大山火山の存在も見逃せない。</p> <p>この長大な砂州を詳しく見ると、海岸線に平行して走る数列の砂州・浜堤と浜堤間低地から成り立っており、形成時代から3つの地域に区分できる。南西側の「内浜地区」の砂州が最も古く、縄文時代にはすでに形成されていた。内浜には砂州の上に小砂丘が点在する。次いで、中央部の「中浜地区」の砂州が縄文時代以降中世までに形成された。『出雲国風土記』には「夜見島」と記されており、古代には半島ではなく、美保湾に浮かぶ島であった。美保湾側に位置する砂州群は「外浜」と呼ばれ、江戸時代以降、急速に成長したものである。日野川流域で盛んになった「鉦」と呼ばれる砂鉄精錬業の影響が大きい。鉦製鉄の原料となる砂鉄が「鉄穴流し」によって採取されたため、大量の土砂が流出したからである。夜見半島が形成されることによって潟湖として残されたものが中海である。</p> <p>「内浜」の砂州の中海側は近世に干拓が進み、新田開発が行なわれている。半島の美保湾側は白い砂浜が続き、弓ヶ浜(夜見ヶ浜)と呼ばれている。</p> <p>この半島については公式な地名はない。地元では弓浜(きゅうひん)半島と云われるが、弓ヶ浜半島あるいは弓が浜半島と呼ばれる場合もある。弓ヶ浜の名称は厳密には美保湾に面した砂浜海岸に対して付けられた呼称である。ここでは、古代の「夜見島」や米子市夜見町にちなんで、新たに「夜見半島」と命名する。</p> <p>見よ→夜見半島の外浜: Coa-beac-2-1-TOTT 弓ヶ浜: Coa-beac-1-2-TOTT 茶屋周辺の鉄穴流し跡: Mis-iron-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
浜村海岸	海岸地形 > 砂州	Coa-bar-1-2-TOTT	④	中線	B
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡気高町		2.5万 浜村(鳥取15-4)			
解説	<p>気高町船磯から東方の宝木まで延びる浜村海岸に沿って、砂浜・浜堤が約6km続く。背後には浜村砂丘が広がる。砂州は浜堤と砂丘に覆われており、標高は5m以下、クロマツの防風林に覆われる。西端の部分は姉泊海岸とも呼ばれる。夏には海水浴客でにぎわう。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
羽尾の円山	海岸地形 > トンボロ及び陸繋島	Coa-tomb-1-1-TOTT	④	小	B
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 田後(鳥取11-3)			

解説	<p>岩美町の羽尾岬の北東、丸山灯台のある円山はかつて海岸から50mほど沖にある離れ岩であった。現在は羽尾海水浴場から続く砂浜が円山南西にまで続き、羽尾の半島と円山は陸続きになっている。砂浜の北側には半島の岩壁から崩落してきた角礫凝灰岩の巨礫が点在している。こうした巨礫の堆積が波浪の侵食力を弱め、その結果、砂浜が成長していったものと考えられる。巨礫の点する北側の浜と砂浜のある南側の境界には高さ3mの堤防が築かれている。</p>
----	---

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鳥取砂丘	海岸地形 > 砂丘・風紋	Coa-dune-1-1-TOTT	*③	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市・岩美郡福部村		2.5万 浦富・鳥取北部 (鳥取11-4・15-2)			
解説	<p>鳥取平野の北部、千代川河口を挟んで東西14km、南北2kmに鳥取砂丘が広がる。砂丘地は千代川西方にある湖山砂丘と東方にある浜坂砂丘、福部砂丘の3つの地域に区分される。狭義の鳥取砂丘は浜坂砂丘に対して用いられる。</p> <p>鳥取砂丘の特徴は起伏が大きいことで、最高点は94mに達する。そして、所々に馬ノ背、長者ヶ庭など円形の窪地(スリバチ)もみられる。また、高師小僧や三稜石も見つかっている。</p> <p>鳥取砂丘は形成時代を異にする3列の砂丘群に大別できる。最も内陸側の列は洪積世に形成された古砂丘が骨格を成している。二列目は約2万年前から古墳時代までに堆積した旧砂丘で、海岸に近い第一列目は、歴史時代に堆積した新砂丘が主体となっている。北の日本海に向って、海底は急激に深くなっている。砂丘表面にはコウボウムギやハマヒルガオが自生し、クロマツの防風林に覆われている所も多い。</p> <p>観光の中心は浜坂砂丘にある“鳥取大砂丘”で背後のスリバチから15mも高くなっており、見事な風紋も描きだされる。高さ・面積ともに日本最大の砂丘といえる。</p> <p>一帯は山陰海岸国立公園に含まれ、鳥取大砂丘は国の天然記念物に指定されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
北条砂丘	海岸地形 > 砂丘・風紋	Coa-dune-1-2-TOTT	③*	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡大栄町・北条町		2.5万 青谷・松崎・倉吉 (松江3-2・4-1・4-3)			
解説	<p>羽合町橋津から大栄町の由良川河口まで約12km続く海岸砂丘。海岸と平行して延びる浜堤の背後に、複雑な起伏をもつ砂丘が約1.8km広がる。最高点は標高20m。茶臼山(標高94m)や三輪山(標高35m)は砂丘上に突き出た基盤岩の山である。また、砂丘砂の下には洪積世の礫層も存在し、砂丘面からは弥生時代や古墳時代の遺跡が見つかっている。現在は開墾されて、ナガイモやスイカ、ブドウの栽培が行なわれている。</p> <p>見よ→北条砂丘の浜堤: Coa-beac-2-2-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
湖山池	海岸地形 > 潟湖(ラグーン)	Coa-lago-1-1-TOTT	②*	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 鳥取市		2.5万 鳥取北部・鳥取南部 (鳥取15-2・16-1)			

解説	鳥取平野の三角州や湖山砂丘の成長によって、日本海から切り離された海跡湖である。面積約7 k m <sup>2</sup> 、周囲18 k m、最大水深8 m。湖には青島や津生島など7つの島が浮かぶ。湖山川で日本海と結ばれている。ワカサギやシラウオ、コイ、ウナギなどの漁獲がある。また、古くからの「石がま」漁法も残っている。人工的なものではないが、池と呼ばれている。一帯は西因幡県立自然公園に指定されている。
----	---

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
とうごういけ 東郷池	海岸地形 > 潟湖 (ラグーン)	Coa-lago-1-2-TOTT	②*	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 東伯郡東郷町・羽合町		2.5万 松崎 (松江4-1)			
解説	倉吉平野の三角州や北条砂丘の成長によって、日本海から切り離された海跡湖である。面積約4 k m <sup>2</sup> 、周囲13 k m、最大水深3.6 m。平面形から「鶴の池」とも呼ばれる。橋津川で日本海と結ばれている。シジミやウナギ、シラウオ、ボラ、フナなどの漁獲がある。人工的なものではないが、池と呼ばれている。湖岸には東郷温泉・羽合温泉があり、一帯は三朝東郷湖県立自然公園に指定されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
みずしりのいけ 水尻池	海岸地形 > 潟湖 (ラグーン)	Coa-lago-1-1-TOTT	②	中	C
所在地		図幅名			
鳥取県 気高郡気高町		2.5万 浜村 (鳥取15-4)			
解説	気高町奥沢見にある周囲3 k m、深さ2～3 mの潟湖。日本海とは水尻の砂丘で隔てられている。江戸時代には東西3町余、南北5町余、周囲35町余あった水尻池は、大正期に大規模な干拓工事が行なわれ、大部分が水田となった。その当時は周囲800 mの小さな三角形の池になっていた。干拓当初、池の水位が上昇するのを防ぐため、池の西岸に「廻し堀」が作られ、砂丘地に掘られたトンネルを経由して奥沢見からの流水を日本海に排水した。しかし、湖面は海面より低いため、排水には電力ポンプが使われた。昭和51年(1981)に、減反政策によって水田は放棄され、干拓以前のような池の姿に戻された。池中に立つ電柱が干拓時代の影を残している。水尻池には冬期に飛来する水鳥も多く、フナやボラ、コイなどが水揚げされる。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
はなみやま 花見山山麓の麓屑面	気候地形 > 麓屑面	Cli-colv-1-1-TOTT	④	中	A
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡日南町		2.5万 千屋実 (高粱10-1)			
解説	花見山(標高1188 m)は日南町東部、岡山県境に位置し、その西～南の山麓には、幅の広い浅い谷や尾根状の緩斜面が広がる。麓屑面は標高650～550 mにみられ、傾斜は6～10°である。花見山山塊を構成する花崗閃緑岩は、深層風化が著しいため、山麓一帯では砂鉄精錬のための砂鉄採集法「鉄穴流し」が盛んであった。 見よ→神戸上周辺の鉄穴流し跡：Mis-iron-1-2-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おおくらやま 大倉山山麓の麓屑面	気候地形 > 麓屑面	Cli-colv-1-2-TOTT	④	中S	A

所在地		図幅名	
鳥取県 日野郡日南町		2.5万 千屋実・上石見 (高梁10-1・-3)	
解説	大倉山 (標高1112m) は日南町東部にある独立峰で、その北～西及び南東の山麓には、幅の広い浅い谷や尾根状の緩斜面が広がる。麓斜面は標高600～400m、傾斜は6～10°である。大倉山山塊を構成するのは花崗閃緑岩で、著しい深層風化を受けている。山麓の上石見や下石見地区では砂鉄精錬のための砂鉄採集法「鉄穴流し」も盛んであった。		

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
ひの 日野高原	その他の地形 > 隆起準平原	Mis-pene-1-1-TOTT	②	大	B
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡日南町・日野町		2.5万 印賀・上石見・阿毘縁 (高梁9-3・10-2・13-2)			
解説	日野郡日南町の西北に広がる標高500～600mの高原。鳥根県境にある猿隠山-鷹入山の山列の南麓から南に向かって日野川まで、東に向かっては印賀川付近まで続いている。花崗岩や玄武岩を切る侵食面で、入り組んだ浅い谷が発達し、平坦な山頂も点在するが、定高性が著しい点に特徴がある。瀬戸内側の吉備高原に対応する地形面である。花崗岩地帯では、砂鉄精錬のための砂鉄採集法「鉄穴流し」が盛んであった。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
やり おね 槍尾根	その他の地形 > 鋸歯状山稜	Mis-jagg-1-1-TOTT	③	微	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	大山山塊の中央、最高点の剣ヶ峯 (標高1729m) から南東の槍ヶ峯に延びる槍尾根は、侵食作用が進み、鋸歯状のヤセ尾根となっている。大山は日本海に直接面しているため、冬季には大量の降雪があること、空隙の多い安山岩で構成されている山体が水分を含みやすいことから、至る所で崩壊が発生している。南西側には二ノ沢、東側には本沢やキリン沢の谷頭が、槍尾根の稜線直下まで迫っており、慢性的な崩壊が起こっている。そのため、剣ヶ峯や槍ヶ峯付近の稜線は登山禁止となっている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大山の いちのきわ 一ノ沢源頭	その他の地形 > 崩壊地	Mis-slid-1-1-TOTT	*③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	大山南壁の崩壊地の一部。一ノ沢源頭は弥山山頂直下であり、激しい崩壊を起こしている。崩落物は一ノ沢に集積し、谷を埋めてしまったため、水は伏流となっている。谷を埋積している土砂は降水や雪解け時に下方へズルズルと滑り落ちている。土砂は大山環状道路を横切り、福永原の北を西に流れ、大江川へと合流する。大山環状道路から4 kmほど下流、標高450m付近から地表水が現われる。一ノ沢には数多くの砂防堰が設置されているが、現在も土砂の多くが堰を乗り越えて下流へ運ばれている。かつては大量の土砂が日野川下流へ運ばれ、夜見半島の砂州の形成に大きな役割を果たした。 見よ→ 夜見半島 : Coa-bar-1-1-TOTT				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
----	--------	-----	-----	----	-----

大山の二ノ沢源頭	その他の地形 > 崩壊地	Mis-slid-1-2-TOTT	*③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	<p>大山南壁の崩壊地の一部。二ノ沢源頭は弥山一剣ヶ峯間の稜線直下にあり、激しい崩壊を起こしている。崩落物は二ノ沢に集積し、谷を埋めてしまったため、水は伏流となっている。谷を埋積している土砂は降水や雪解け時に下方へズルズルと滑り落ちている。土砂は大山環状道路を横切り、福永原の南を南西に流れ、白水川（しろみがわ）となる。大山環状道路から3 kmほど下流、標高550m付近から地表水が現われる。二ノ沢には数多くの砂防堰に加え、一部の河岸には堤防も設置されている。かつては大量の土砂が日野川下流へ運ばれ、夜見半島の砂州の形成に大きな役割を果たした。</p> <p>見よ→ 夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大山の三ノ沢源頭	その他の地形 > 崩壊地	Mis-slid-1-3-TOTT	*③	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	<p>大山南壁の崩壊地の一部。三ノ沢源頭は剣ヶ峯一槍ヶ峯間の稜線直下にあり、激しい崩壊を起こしている。崩落物は三ノ沢に集積し、谷を埋めてしまったため、水は伏流となっている。谷を埋積している土砂は降水や雪解け時に下方へズルズルと滑り落ちている。土砂は大山環状道路を横切り、鍵掛峠の西側を南西に流れ、小江尾川となる。大山環状道路から2 kmほど下流、標高650m付近から地表水が現われる。三ノ沢にも数個の砂防堰が設置されているが、現在も土砂の多くが堰を乗り越えて下流へ運ばれている。かつては大量の土砂が日野川下流へ運ばれ、夜見半島の砂州の形成に大きな役割を果たした。</p> <p>見よ→ 夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大山の元谷	その他の地形 > 崖錐	Mis-tals-1-1-TOTT	③*	中S	B
所在地		図幅名			
鳥取県 西伯郡大山町		2.5万 伯耆大山 (松江8-4)			
解説	<p>弥山から剣ヶ峯にかけての大山の北斜面は、大屏風岩や小屏風岩と呼ばれる垂直の崖が屏風状に連なる。こうした岩壁では岩石の崩壊や崩落が慢性的に発生しており、北壁に切り込む佐陀川の谷頭である元谷や弥山沢、行者谷は大量の崩落物に覆われている。特に大屏風岩と小屏風岩の間の元谷岩壁には、標高1200から1300mにかけて、数個の崖錐が形成されている。非常に急傾斜で落石の危険が常時ある。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
茶屋周辺の鉄穴流し跡	その他の地形 > 鉄穴流し跡	Mis-iron-1-1-TOTT	②	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡日南町茶屋		2.5万 阿毘縁 (高梁13-2)			

解説	<p>中国山地では、近世に「鈔」と呼ばれる砂鉄精錬業が盛んであった。その原料は地元で産出する木炭と砂鉄であった。風化した花崗岩類の尾根や斜面を掘り崩し、流水による比重選鉱で砂鉄を採集していた。この手法が「鉄穴流し」である。鉄穴流しによって、山麓斜面は大規模に改変された。鉄穴流しの跡地の多くは、ならされて耕作地として利用された。また、岩盤の中で未風化の部分は、堅くて掘り崩せなかったため、突起状の「鉄穴残丘」として残っている。人為的な削りは平均して厚さ5m位である。なお、掘り流した土砂の一部は源頭部や谷の出口に流し込まれて、「流し田」が造成された。さらに、多くの土砂は下流部へと運ばれ、海岸に堆積し、三角州を拡大させた。</p> <p>日南町茶屋は標高500～600mの日野高原西部に位置する小盆地状の地域で、小原川の支流、北の小濁川と南の黒谷川に囲まれる。深層風化の進んだ花崗閃緑岩や因美花崗岩の山地を削って、古くより「鉄穴流し」が盛んであった。「鉄穴残丘」や「流し田」も処々にみられる。また、鉄穴流しによる土砂は小原川から日野川へと流出し、米子平野や夜見半島の成長に大きな役割を果たした。</p> <p>茶屋には「鉄穴山」「鉄穴洞」「鉄穴池端」「鈔腹向」「鉄鑄谷」「穴内」「赤真砂」など、砂鉄精錬に関連する小字も数多く残っている。</p> <p>見よ→夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
かどのかみ 神戸上周辺の鉄穴流し跡	その他の地形 > 鉄穴流し跡	Mis-iron-1-2-TOTT	②	中	B
所在地		図幅名			
鳥取県 日野郡日南町神戸上		2.5万 千屋実 (高粱10-1)			
解説	<p>日南町神戸上は花見山の南～南西麓に位置する。花見山一帯は、風化の進んだ花崗閃緑岩から構成されていること、花見山山麓には緩傾斜の尾根が存在していたことなどから、古くより「鉄穴流し」と呼ばれる砂鉄採集が盛んで、特に江戸時代には大量の土砂が掘削された。鉄穴流し跡地には、土砂を流し込んで谷を埋めて造成した「流し田」や削り残しの「鉄穴残丘」など、複雑な小凹凸の点在する山麓地となっている。また、鉄穴流しによる土砂は石見川から日野川へと流出し、米子平野や夜見半島の成長に大きな役割を果たした。</p> <p>神戸上には「鉄穴内」「殿鉄穴」「鈔腹」「鍛冶屋田」など、砂鉄精錬に関連する小字も数多く残っている。</p> <p>見よ→花見山山麓の麓層面：Cli-colv-1-1-TOTT 夜見半島：Coa-bar-1-1-TOTT</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
からかわ 唐川湿原	その他の地形 > 低層湿原	Mis-pond-3-1-TOTT	③	中S	B
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡岩美町		2.5万 稲葉山 (鳥取12-3)			
解説	<p>岩美町唐川の南東端、塩見川の源流部の溶岩台地上にある東西200m、南北800m、広さ1.3haの湿地。標高370～400mの谷間にあり、上流部は大沢池によって人為的に堰き止められているため、ほとんどが泥炭層の発達した湿地となっており開水面はみられない。初夏にはカキツバタ群落に一面が覆われ、唐川のカキツバタ群落として国の天然記念物に指定されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
すびの 菅野湿原	その他の地形 > 低層湿原	Mis-pond-3-2-TOTT	③	中S	C
所在地		図幅名			
鳥取県 岩美郡国府町		2.5万 扇ノ山・稲葉山 (鳥取12-1・-3)			

解説	<p>国府町菅野にある面積約650m<sup>2</sup>の湿原。扇ノ山火山岩類の安山岩溶岩によって堰き止められてできた湿地で、標高は400m、かつては一面がミズゴケ群落に覆われていた。モウセンゴケやイヌスゲ、カキツバタ、ミズギボシなど湿原性の植物がみられた。ただし、開水面はみられない。現在は2/3が耕地化されてしまい、湿原の乾燥化が進み、樹木などが進出している。</p> <p>すぐ東隣に、「鳥取プレイランド」が開設されていた（現在は閉鎖中）。菅野湿原のミズゴケ群落は県の天然記念物に指定されている。</p>
----	---

## 文 献

- 小泉武栄・青木賢人（2000）『日本の地形レッドデータブック—第1集—危機にある地形』古今書院，210ps
- 三浦 清・林 正久（1991）中国・四国地方の第四紀テフラ研究．第四紀研究，30，pp.339-351.
- 津久井雅志（1984）大山火山の地質．地質学雑誌，90，pp.643-658.
- 荒川 宏（1991）大山火山西部における火山麓扇状地の形成．地理学評論，57A，pp.831-855.
- 角川日本地名大辞典編纂委員会編（1982）『角川日本地名大辞典—31鳥取県』角川書店，1270ps.
- 山陰中央新報社（1995）『最新版鳥取県万能地図』山陰中央新報社，74ps
- 新日本海新聞社鳥取県大百科事典編集委員会編（1984）『鳥取県大百科事典』新日本海新聞社，1101ps